

令和6年度 第4回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議 議事録

開催日時	令和6年11月28日（木） 14時00分～16時00分	
開催場所	中央区保健福祉センター 13階 きぼーる特別会議室	
出席者	<委員>	
	伊藤 佳世子 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	近藤 秀登 氏	（花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	高橋 有美 氏	（稲毛区障害者基幹相談支援センター）（代理出席）
	伊藤 正彦 氏	（若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	由良 亮人 氏	（緑区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	藤本 真由美 氏	（美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	末永 慎介 氏	（鎌取相談支援センター センター長）
	高柳 佳弘 氏	（メープルリーフ 運営管理者）
	藤尾 健二 氏	（千葉障害者就業支援キャリアセンター センター長）
	平田 智子 氏	（千葉市ひきこもり地域支援センター 事業責任者）
	鈴木 信知 氏	（千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進班長）
	仲村 美緒 氏	（千葉市発達障害者支援センター 所長）
	山崎 貴裕 氏	（中央区高齢障害支援課 障害支援班 主査）
	木村 一夫 氏	（花見川区高齢障害支援課 障害支援班 主査）
	井山 綾子 氏	（障害者自立支援課 こども発達相談室）（代理出席）
	北田 幸一 氏	（障害福祉サービス課 施設支援班 主査）
	北島 岳彦 氏	（障害福祉サービス課 地域支援班 主査）
	<オブザーバー>	
	吉田 美穂 氏	（障害福祉サービス課 地域支援班 主任主事）
	<事務局>	
	伊藤 佳世子 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	<欠席>	
	土屋 昌之 氏	（有限会社トータル介護サービスアイ 千葉営業所 所長）
	垂見 成人 氏	（障害者自立支援課 企画班 主査）
	藤崎 直樹 氏	（障害者自立支援課 給付班 主査）
	荒井 拓 氏	（障害福祉サービス課 指導班 主査）
	永井 智也 氏	（精神保健福祉課 通報対応班 主査）
議題	議題1：【自立支援協議会報告】各基幹より	
	議題2：【医療的ケア児専門部会】中央区基幹 伊藤	
	議題3：【地域生活支援拠点等】花見川区基幹 近藤氏	
	議題4：【こども発達相談室】 障害者自立支援課 井山氏	
	議題5：【就労部会】千葉市キャリアセンター 藤尾氏	
	議題6：【精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について】 鎌取相談支援センター 末永氏	
	議題7：【現任研修、インターバル研修】中央区基幹 伊藤	
	議題8：【児童系通所研修、意見交換会】中央区基幹 伊藤	
	議題9：【相談員交流会】中央区基幹 伊藤	
	議題10：【入院者訪問支援事業】中央区基幹 伊藤	
議 事	議題1【報告】自立支援協議会	
	自立支援協議会 各地域部会の報告[資料データ事前配布]	
		資料なし

花見川区 近藤氏

各委員からの事業説明を基に地域課題について話し合っている。10月は、手をつなぐ育成会より保護者の視点でお話いただいた。啓発活動および行政への要望における地域部会の役割について改めて確認した。

稲毛区 高橋氏

10月は2つの事例検討を行った。1つ目は訪問看護事業所からの事例で、双極性障害のある方の夫婦関係の課題。2つ目は稲毛区障害者基幹相談支援センターからの事例で、行動障害のある男性のグループホームでの支援について検討し、活発な意見交換が行われた。

若葉区 伊藤氏

こども発達相談室の前嶋氏より事業概要説明、8月に行った若葉区児童系事業所意見交換会の報告、LGBTQについての講話、8050事例検討など行った。8050のケースは、2年前にあんしんケアセンターに話があり、当時は繋がらなかったが今になり動き始めた。時間のかかるケースと再認識した。

緑区 由良氏

9月の運営事務局会議の報告、運営受託から2年経過し、地域特性を把握しつつある状況を踏まえ、地域課題として新しい社会資源の開発・創出をテーマに検討の機会を設けた。社会との関わりが少ない方、障害特性が強く社会参加の機会が限られている方、こどもの相談の増加などを受け、誰もが安心して過ごせる居場所・支援の場が必要との意見をいただいた。福祉サービスの谷間を埋めるべく、地域交流の自由な空間・第三の居場所としての役割を果たす【サードスペースみらい】の開設を報告した。

美浜区 藤本氏

委員からの地域課題として、知的障害者相談員の方から、重度の方の医療受診が高齢化に伴って難しくなる方が増えているとの問題提起があった。相談員の方からは、とある病院が良いとの話があったが、市内でも技術移転等できないかとの意見が上がった。また、セルフプラン率の高さと基幹でのバックアップの必要性、8050ケースの課題抽出などを行った。

中央区 伊藤

部会報告の中で保育所等訪問支援について話し合い、事業所・幼稚園・保育園の連携の仕方に課題があるとの意見があった。また、9月に開催した8050フォーラムにおいては、こころの健康センターの講師より「ひきこもり支援における4つのステップ」についてお話があった。拠点で行っているグループホーム体験の啓発活動とも関連するが、一つ一つのステップの間を段階的に踏めるような支援が重要との話が出た。

議題2【報告】医療的ケア児専門部会

資料1

中央区 伊藤

千葉市防災対策課より、避難訓練のアンケート調査の一部抜粋（資料1）をいただいている。11月は個別避難計画を立てた方について各区で実際の訓練を行った。訓練動画を共有したい。

・避難訓練の報告（緑区、花見川区、中央区）※訓練動画の共有

緑区 由良氏

緑区では11月13日に実施。テーマは、非常電源のある施設へのダイレクト避難。団地に暮らす重症心身障害児者の方の避難を行った。緑区役所、団地の自治会や近隣住民の方々など計21名の参加があったことは大変有意義であった。ベルガ（移動用補助具）を使用し、団地4階からの避難を行った。避難先までの200～300mの移動がいかに困難か痛感した。

稲毛区 高橋氏

花見川区の訓練には稲毛区役所も参加した。避難先はお寺。本堂を借りる予定

だったが、広い部屋を案内して下さった。住職の奥様が民生委員ということで大変協力的であった。非常電源はないが、停電時に別ルートから引いてくることができる電源があるとの事だった。

花見川区高齢障害支援課 木村氏

お寺が避難先というのは初めてだったが、ありだと感じた。お寺は避難先に指定されてはいないが、今後の選択肢として検討しても良いかもしれない。保護者にとっては、自宅近くに頼れる場所があることを知ることができたということが非常に心強いとの感想があった。日常の訓練が大切だと実感した。

中央区 伊藤

中央区はご本人の体調が良くなかったため、呼吸器のバッテリー充電について検証を行った。バッテリーは呼吸器本体がないと充電できないため、2台持ちの1台を使い、車いすへの移乗・避難先の公民館までの移動時間と必要な荷物等を確認した。実際に充電を試みると、ポータブル電源のメンテナンスが不十分（3台のうち1台しか使えなかった）、公民館職員が使い方を把握していない、充電に時間がかかる（10分で1%）、ソーラーパネル充電が非常に困難であるなど、複数の課題が見えた。

今後、美浜区・若葉区でも訓練を予定している。

もう一点、医ケア部会の報告として、県のモデル事業で医ケア児の通学支援がスタートしている。桜ヶ丘特別支援学校、袖ヶ浦特別支援学校の2校がモデル校となっており、訪問看護が同乗してタクシーに乗車する形だが、なかなか上手くいっていない現状があるとのこと。今回は説明が短時間だったので、12月に再度説明をしていただく予定。

議題3【報告】地域生活支援拠点等

資料2

若葉区 伊藤氏

シェルター関係機関の情報共有会を行った。これまで年1回のペースで開催してきており今年で3回目。今年は避難後の住居支援をテーマとし、生活自立仕事相談センター、児童家庭支援センター、福祉まるごとサポートセンター、マザーズコンフォート、すまいサポート千葉などに参加いただき、住居や実際の対応事例について情報共有を行っていただく事ができた。それぞれの立場・役割が違うが、互いに対象範囲や空き状況を確認し合いながら連携して取り組んでいるケースが多かった。対象の方でも定員が埋まっていれば入れない。参加者の質疑でも、空きが無い場合どうするか等の話があった。

花見川区 近藤氏

11月26日に開催した在職者交流会について。今回はキャリアセンターとの共催で、在職者に関わらず、現在福祉に繋がっていないような方に向けて、グループホームの情報発信、体験利用の啓発を行った。今年は、実際にグループホームで暮らしている方の暮らしを覗かせてもらうというコンセプトで、ご本人・グループホーム事業者・保護者に体験を語ってもらった。様々な方にご参加いただき、概ね好評だった。印象的だった事として、親の会の保護者から、「若いうちからグループホームに入居するのはネグレクトに当たるのでは…」との思いがあったとの感想が聞かれた。第三者を介入させることのきっかけ、難しさを改めて感じた。

中央区 伊藤

交流会で配布したグループホーム体験チラシを学校が配布してくださったことで、結果的に若い方のニーズが高い事が分かった（7歳、8歳のお子さんの保護者の中でショートを試したいとお考えの方がいらっしゃった）。一方で、これまであまり想定していないニーズであり、資源がほとんど無いことは、地域課題と考えている。グループホームの空所利用型短期入所でも指定は可能、ということ登録事業所に啓発していくことも検討したい。

●参加者からの質問

メープルリーフ 高柳氏

障害児を主たる対象としていない事業所の場合、児童の空床型短期入所の利用は難しいのでは？

障害福祉サービス課 北田氏

制度上は可能だが、現実的には成人と幼年のお子さんが一緒に生活するのは受け入れ側としては難しい部分もあるのではないかな。

メープルリーフ 高柳氏

親御さんの世代による意識の差はあるのではないかな。放課後等デイサービス等の資源の有無など時代背景によっても、お子さんを外部に預けることに対する思いにも違いがある。ご家庭やご本人の特性に合わせた適正利用を周りの支援者が判断できるのかという点も課題と感じる。

議題4【報告】こども発達相談室

資料3

こども発達相談室 井山氏

千葉ポートサイドタワー9階に開設。発達障害のある未就学児がターゲット。就学以降は保護者の了承を得た上で養護教育センターに紹介していく。行動観察や保護者からの聞き取りを通して本人の特性を把握し、必要であれば検査も行いながら、支援の方向性を探っていく。療育利用のための意見書作成は、段階的な相談を経て行うこととしている。相談はオンライン予約だが、予約方法について問い合わせは今のところない。申し込み状況としては、中央区、稲毛区、花見川区の順に多い。年齢別にみると、2歳が一番多い。想定以上に多かったのは5歳の相談。相談内容としては、言葉の発達、落ち着きがない、集団行動の困難などが多い。相談のきっかけとしては、保護者自身の希望が多いが、この中には保育園や幼稚園から促しがあったという方も多い。本人の所属は幼稚園が一番多く、次いで保育所となっている。今後件数が増えた段階で改めて報告したい。

●参加者からの質問

花見川区高齢障害支援課 木村氏

ここ1、2年、障害児のサービス申請件数が急増していると感じている。実際の現場ではどうか？

こども発達相談室 井山氏

現在は2回目の面接が始まりつつある状況だが、保護者の不安を解消することで1回目の面談で終結する方も一定数いらっしゃる印象。

千葉市社会福祉協議会 鈴木氏

民生委員等、地域の方からの問い合わせは来ているかな？

こども発達相談室 井山氏

民生委員からの問い合わせは今のところない。保護者の方からは、「障害」という単語がついていないことで、より気軽に相談して頂けている印象。

発達障害者支援センター 仲村氏

言葉の遅れが主訴という方は多いと思うが、保護者は発達障害を疑っていらっしゃるかな。こども発達相談室の開設後、当センターのすくすくサポートの相談件数は激減している状況。

メープルリーフ 高柳氏

先ほどの木村さんのお話について。文科省のアンケート結果をみると、こどもの8.8%が支援を要するとされている。発達障害の理解が進む中で教員が支援の必要性を感じるケースが増えているのではないかな。家庭での関わり方としては、構造化とペアレントトレーニング、どちらに重きを置いているかな？

こども発達相談室 井山氏

ケースバイケースで助言している。いずれの場合でも、こどもの感情を受け止める重要性を伝えている。

議題 5 【報告】 就労部会	資料 4
・ 令和 6 年 1 1 月 1 2 日 (火) 第 4 回就労部会 ・ 令和 6 年 1 1 月 1 8 日 (月) 就労継続支援事業所意見交換会 キャリアセンター 藤尾氏 第 4 回部会を 1 1 月 1 2 日に開催した。令和 6 年度第 2 回 A 型 B 型の意見交換会の開催について、第 1 回の時に千葉市として優先調達が広まっていかないという課題が挙げられていたため、第 2 回では優先調達に特化した内容にする方向で意見交換を行った。また、令和 6 年度第 2 回就労移行支援事業所意見交換会についての議論の中で、来年 1 0 月から始まる就労選択支援事業について意見交換を行い、優先調達についての実態調査と仕組み作りの必要性を確認した。 1 1 月 1 8 日に開催した B 型意見交換会では、質疑応答が白熱した。各事業所が優先調達に対応できる体制を整備する事、共同受注を取りまとめる機能が必要であること、市役所内での啓発の必要性などが確認された。次回、就労移行支援事業所意見交換会は 2 月に開催予定。	
議題 6 【報告】 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について	資料 5
鎌取相談支援センター 末永氏 分科会ごとに報告する。まず、進め隊では、地域移行支援を実践する事業所を増やすことを目的とした構築推進サポーター事業、地域移行支援のアンケートを元に支援手引書を作成した。今後、相談支援事業所を対象とした交流会の開催を予定している。(議題 9) その他、医療機関向け講習会として、1 2 月 8 日に篠崎病院にて院内研修を行う予定。 次に広め隊では、公民館講座、学生向けの講座を行っており、ちょうど本日、植草学園大学にて学生向けの説明会を開催している。また、深め隊では、当事者の参加・活躍の場を広げる事を目的として、教育機関・企業向けに活動している。最後に事務局では、今年度の新たな取り組みとして、個別相談会(地域における医療・福祉サービスの何でも相談会)を 1 0 月 7 日に開催した。 花見川区 近藤氏 補足。相談員交流会のもう一つの目的として、相談員に地域移行の実情・必要性を理解して欲しいという側面もある。	
議題 7 【報告】 現任研修、インターバル研修	資料なし
中央区 伊藤 昨年度から相談支援専門員の現任研修のインターバル実地研修を各障害者基幹相談支援センターで行っている。1 2 月～1 月にかけて当該センターでの事例検討のほか、地域部会・意見交換会への参加等を進めている状況。	
議題 8 【報告】 児童系通所研修、意見交換会	資料 6
中央区 伊藤 1 1 月 1 9 日に千葉市の児童系通所事業所意見交換を開催した。児童系通所事業所は市内におよそ 3 0 0 あり、市内に 7 0 0 以上ある障害福祉サービス事業所のうち、児童の事業所が多数を占めている状況。当日は約 1 0 0 名の参加があり、対面での意見交換会を行った。ヨコの連携を作っていくという認識で一致した。	
議題 9 相談員交流会	資料 7
中央区 伊藤 末永氏より説明があった通り、ぜひ周知していただきたい。	
議題 10 入院者訪問支援事業・その他	資料 8
中央区 伊藤 精神保健福祉法の改正による事業。主に市長同意で医療保護入院されている方	

	で、家族との面会が全くない方を対象として、希望者に対して面会をしていく取り組み。千葉市は県に先駆けて、１２月～３月までモデル的に行うことになっている その他、資料にはないが、地域生活支援拠点勉強会・報告会について。毎年行っており、今年は１２月２０日の１０時～１２時で開催予定。ぜひご参加いただきたい。 ●参加者からの意見 発達障害者支援センター 仲村氏 千葉県自閉症協会から新しいパンフレットが届いている。本日障害者基幹相談支援センターに共有するので、活用していただきたい。地域部会にて親の会や医療についての話題が出ていたかと思うが、親の会では情報共有が盛んなため、病院等で悩んでいる方に親の会の情報も活用いただけたらありがたい。 キャリアセンター 藤尾氏 先日全Ａネットの方と話をした。インサイトによる調査によると、全国のＡ型の半数が赤字、うち約４割が黒字に転向する見込みがないとの結果が出ている。今後の対応を考えていく必要性を感じており、地域課題として共有しておきたい。 中央区高齢障害支援課 山崎氏 １０月より、保育所等訪問支援の訪問先との同意書を取る運用に変わったが、小・中学校からの同意があまり出てきていない印象がある。保育園、幼稚園は比較的同意をもらっている中で、学校については中央区で確認できているのは現在１件のみ。肌感覚ではあるが、学校に訪問する困難さを感じている。 ひきこもり地域支援センター 平田氏 にも包括に関連して。８０５０ケースで、本人が地域に出る以前に、親御さんが抱え込んでしまっていることが多い。グループホームなど、地域で暮らすという意識が当事者の親御さんたちに広がっていくと良いと感じた。 障害福祉サービス課 吉田氏 避難訓練に参加した感想として、実際の避難では酸素が積まれた荷物の多さに、周囲の理解・協力が重要になると感じた。避難所の電源の確保方法など、知らないで発想できない事が多いと痛感した。 障害福祉サービス課 北島氏 避難訓練に参加した。人それぞれで状態・ニーズが異なり、必要なものも変わってくるため、具体的に個別避難計画に落とし込むことが必要と感じた。訓練では多くの人に参加していたが、災害時にそれだけの人数の助けが直ぐに得られるとは限らないため、日頃から地域の方が関わるのが重要と感じた。 障害福祉サービス課 北田氏 行動障害を考える会のアンケート結果について。現時点では作成途中だが、個人情報提供に関しては、障害者基幹相談支援センターへの情報提供に同意されている方が相当数いらっしゃった。気軽に相談できる先や、入所施設を求めている方が多い印象であった。来月２３日の行動障害を考える会ではある程度の物を発表できるようにし、１月の運営事務局会議ではさらにまとまった状態で共有したい。 中央区 伊藤 避難訓練については、いかに地域住民の方に繋いでいくか、という部分が専門職の役割であると感じている。
次回予定	日時：令和７年１月２３日（木）１４時～ 会場：花見川区保健福祉センター